



しずおか愛護

No.44 (令和4年3月18日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



=巻頭言=

新型コロナウイルスも国内発生から2年が経過しました。当初は新感染症に対する知識もなく対応方法も手探り状態で大きな不安を感じましたが、ウイルスの特性やワクチン対応も経て国の対応や国民の意識も変化している状況が伺えます。しかし、今回の強い感染力を持つオミクロン株を主とした第6波は容赦なく知的障害関係の利用者や関係者までも感染が及び、中には大規模なクラスター感染により甚大な影響を受けた事業所の報告もあります。何よりも、感染によって体調不良に陥った利用者、職員自身の感染、感染はしてなくても感染のリスクを負いながら現場で支援する職員の負担、日々緊張の中にあり大きな責任を負いながら対応する管理者、それぞれが苦しい日々を過ごしたと思います。このしずおか愛護が発行された今も、感染の対応にあたっている事業所もあるかもしれません。まだまだ感染収束の見通しは立っていませんが、またその時々々の状況を確認し共有しつつ、協会としても協力できる方法を検討したいと思います。いつの日か元の生活と皆さんの笑顔が戻ることを祈りつつ…。

さてそのような中で、施策に関しては障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて議論と整理が行われていますが、様々な課題がある中で個人的には障害者支援施設の在り方について検討を行わなければならない時期に来ていると感じています。以前より地域移行を促進しながら徐々にグループホーム等の整備も進められてきていますが、様々な専門支援が必要となる利用者が増え、現在の障害者支援施設では受け止めきれない状況が多く生じています。入所希望は増えても入所している方の地域移行は困難なケースも多く、重度高齢化や強度行動障害のニーズは増す一方で、施設的环境整備や職員体制確保は困難な状況が増加しています。これは成人分野だけの問題ではなく、児童が成人年齢になった時の受け皿の問題とも連動しており、過齡児も含めてその方々の年齢や特性に応じた必要なサービスが提供できないことは、利用者個人に対する権利擁護の問題でもあります。現在ようやく障害者支援施設に対して「地域移行、個室化、小規模化、ユニット化を促進し、強度行動障害の状態等に応じた支援策の充実等を図り、権利擁護の視点を強化すべきである。」と意見が出されていますが、この内容を具現化することが急務であると思います。皆さまもそれぞれの事業所や種別、または地域で課題となっている事柄について、是非多くのご意見を出していただければと思います。よろしくお願いたします。



静岡県知的障害者福祉協会
副会長 出水巖生
(三方原スクエア児童部)

第30回愛護ギャラリー展

事務局 河合裕美

令和3年12月7日の作品の搬入から始まり、8日審査会、9日開会式、12日まで一般公開、13日に作品搬出という日程で開催しました。317作品の出展があり、今年度は30回目の開催を記念して、「実行委員会賞」という特別賞も設けました。オミクロン株が猛威を奮い始めた時期でしたが450人ほどの方にご観覧いただきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策を施した新しい運営方法でしたが、実行委員、協力員、作品出展事業所のご協力のもと安全に開催することができました。

来年度は、今年度新事業として発足した「文化芸術活動コーディネーター育成事業」の受講者の皆さんに企画、運営などを考えていただき、さらに進化した、新しいギャラリー展を開催できると期待しています。

※第30回愛護ギャラリー展特設HP開設しました！是非是非ご覧ください！

<https://shizuoka-aigoexhibition.com/>

金賞受賞作品

絵画の部



県知事賞

雨上がり

富岳の園
吉田幸子

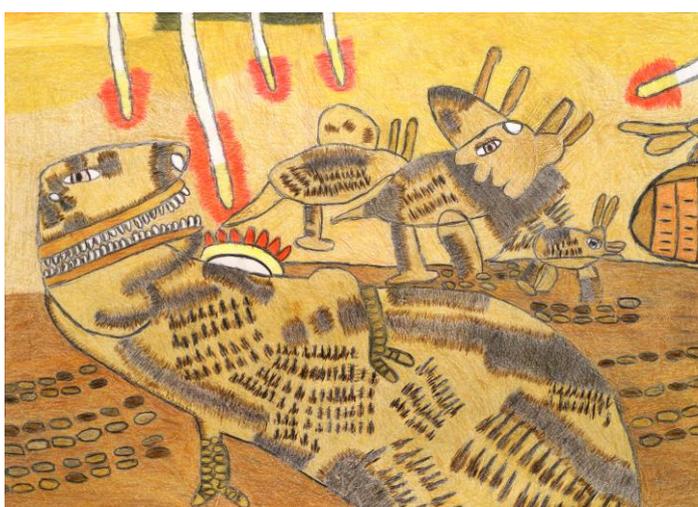
コンテパスを使い
描きました

静岡市長賞

さかな・さかな・さかな

草笛共同作業所
鈴木利宣

丁寧なスケッチによる二次元
水族館をお楽しみください。



県福祉協会

会長賞

恐竜

さしだ希望の里
坂田仁

迫力ある中にも、愛らしい表情となりました。
タイムスリップしてそこにいる思いで描きました。

陶芸の部



県知事賞

アツローSLコレクション

菊川寮
大石惇郎

電車作りが大好きです。
色々なSLを作りました。



静岡市長賞

動物の置物

菊川寮共同作品

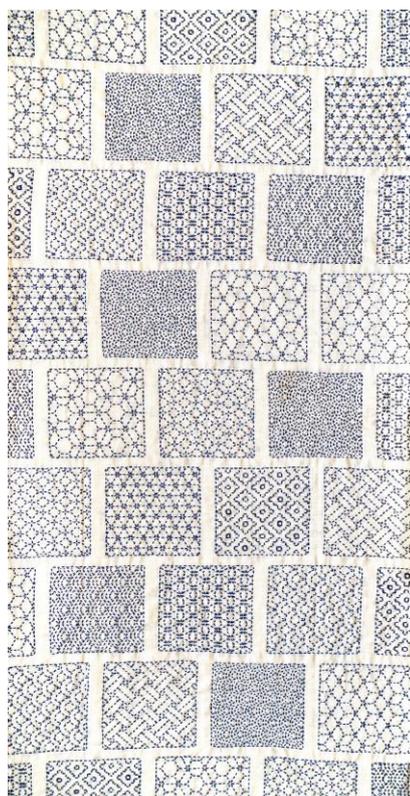
粘土でたたらを作り動物の形にしました。
表面にはそれぞれが好きな絵を描いて埋めました。

県福祉協会
会長賞
ドラゴン ダンジョン
富岳の園
陶芸クラブ共同作品



みんなで協力して、迫力のある
ドラゴンを作りました。

工芸の部



県知事賞
波紋の心窓

富士清心園
柚木 節

コツコツと時間をかけて、刺し子を作りました。
色々な模様の刺し子を並べると、それぞれの表情
の違いがまるで心の波のように見えて、不思議な
魅力を感じます。

静岡市長賞

アッチャンのもくめ

支援センターわかぎ
久保田あつ子

木札を手にとって遊んでいるうちに近く
にあったペンで木目をなぞり
次々と色を変えてまたなぞり…並べて
みたら素敵な色合いの、もくめ模様が仕
上がりました！



県福祉協会

会長賞

春夏秋冬

富岳の園
久松弘幸



得意な切り絵とスプレーアート
を融合した作品です。

令和3年度施設長等研修会

事務局 青野剛明

令和3年度の施設長等研修会は、新型コロナ第6波の襲来により昨年と同じくオンラインによる研修会となりました。今年度末は役員改選の時期であり、各部会長や地区代表理事などの選出が主な内容となりました。

まず、開催に当たって池谷会長から、次期（令和4・5年度）も会長を務めることになったのでよろしくお願ひしたいとの挨拶がありました。

続いて、各施設種別部会長・副部会長、専門委員会委員選出のため、部会ごとにZoomのブレイクアウトルームを使って話し合いをしていただきました。協会役員となる部会長、副部会長は定款施行細則の規定により投票を行い、最多票の者が選ばれることになっていることから、投票は事前の正副会長会議において郵便で行うこととしました。各部会での話し合いが終わった後、地区会を開催し、地区推薦の役員を選出していただきました。選出された役員は、会員総会の決議をもって正式に選任されます。

最後に、令和2年4月1日施行した災害時相互支援実施要綱について、担当の山下理事から説明があり、法人ごとに世話役の施設・事業所の選出について依頼がありました。

○選出された役員となる部会長・副部会長及び地区推薦役員は次のとおりです。

施設種別部会	部会長	副部会長
児童発達支援部会	出水 巖生 (三方原スクエア児童部)	杉山 延江 (富岳学園)
障害者支援施設部会	天良 昭彦 (駿豆学園)	山下 克広 (赤松寮)
日中活動支援部会	家込 久志 (ほっと)	原 邦人 (ミルキューウェイ)
生産活動・ 就労支援部会	溝口 弘志 (あおばのさと)	石井 智賀 (ワークセンターやまもも)
地域支援部会	片山 昌俊 (コムニート浮島)	
相談支援部会	飯塚 友紀 (サポートセンターコンパス北斗)	

東部地区	中部地区	西部地区
高井 昌弘 (みはらしの里)	大澤 将孝 (望未園)	山田 宗克 (松ぼっくり)

職員研修所講座報告

人材養成担当理事
山田宗克(松ぼっくり)

令和3年度、本協会主催の職員研修所講座については、新型コロナウイルス感染予防の見地から実施を心配しておりましたが、少しずつ実施していくということで現在に至っています。

予定していた講座及び講座の実施状況は下表のとおりです。

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永博文氏	「障害のある人の社会的自立のための行動形成」というテーマで実施。
医療・看護講座	山倉慎二氏	「知的発達障害者と医療」テーマで開催。
カウンセリング講座	杉本好行氏	今年度は中止。
障害特性を理解する講座 (児童期)	大石明利氏	「障害児・者の発達の理解と支援」というテーマでZoomで実施。
障害特性を理解する講座 (成人期・高齢期)	高橋和己氏	「知的障がいのある人の暮らしと支援～制度の変遷と事例を通して考える」テーマで実施。
障害のとらえ方講座	小林不二也氏	今年度は中止。
発達障害の職員への対応	志賀利一氏	「発達障害のある職員への対応」というテーマでZoomで実施。
メンタルヘルス講座	種市康太郎氏	「職員が自分の健康を保つために」というテーマでZoomで実施。
性に関する講座	片岡佳美氏	今年度は中止。
権利擁護セミナー	古井慶治氏	権利擁護啓発講座として開催。

今年度は、当初コロナ禍の影響により参加者が募れるのか心配をしましたが、200名ほどの参加が得られました。講座別の受講者数は下の表の通りです。

【受講者数】

年度	心理	カウンセリング	医療看護	障害と らえ方	児童	成人	発達	メンタル	性の講座	権利擁護	総数
2020	中止	中止	28	中止	50	39	中止	中止	--	--	117
2021	9	中止	22	中止	15	22	35	37	中止	62	203

当初、順調にコロナ禍が収まり、予定した通り実施できるかもしれないと期待していましたが、収まったらまたぶり返しの連続で、その都度感染状況を確認し、「Zoom」、「リモート」といった技術を活用しながらの開催であったと思います。県知協事務局の皆様の協力により、できるだけの講座は開催できたものと感謝いたします。

又、「リモート開催」の良さを生かし、遠方で普段はなかなか声をかけさせていただけない講師の方にも「リモートなら・・・」という気軽さで講演していただけたことは良かったことの一つでした。しかしながら、参加者の方の中には、やはり直接会場で職員同士、様々な話を聞いたり、議論したかったという声も聞かれました。今後の講座開催の課題の一つです。

様々な状況の中、講師を引き受けていただいた皆様、ありがとうございました。
来年度に向けて、ステルスオミクロン等新型コロナウイルスの感染拡大の状況が読めませんが、今年度予定していた講座、特に2年連続で中止となっている講座の開催や対面の良さも生かした講座開催など検討して実施していきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

《 編集後記 》

オミクロン株の感染がものすごい勢いで拡大、私のところもとうとうやられてしまいました。今はやっと穏やかな日常に戻ることができましたが本当に仕様がなかった状況です。この経験を糧に新しい年度はいろいろな意味で仕様がなかったことを減らしていけたらと思います。

さて今号で広報担当を次にバトンタッチします。「明るい話題の提供を…」と心がけてまいりましたが、最後は少し残念な話題で申し訳ありません。できれば各イベントの取材にも行きたかった…。

記事を提供していただいた皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。fine

(広報担当 戸津策太郎)

